

令和5年度 大阪大学ナノ高度学際教育研究訓練プログラム社会人教育プログラム  
特別集中講座 「ナノテクノロジーデザイン特論B」 開講のご案内

1年を通しての夜間講義に加えて、本年度後半も土曜集中講座が推奨科目として開講されます。前期の「ナノテクノロジー社会受容特論B」に引き続き、後期は「ナノテクノロジーデザイン特論B」です。本講義は、5日間に亘る講義と討論を組み合わせたもので、技術ロードマップ策定やプロジェクトマネジメント、MOTの考え方に関して、ケーススタディーを交えて学習する講座です。将来の産業発展の姿を描いたうえで、必要な要素技術を総合デザインする力を養い、「有用性の谷」を乗り越える実力を身につけるための討論重視のプログラムとなります。

第1回～4回はロードマップ概要・活用法、ナノテクの見える化とその要素技術紹介、さらに材料・デバイスからシステムまでを含むディスプレイ、プリントドエレクトロニクス、マテリアルズインフォマティクス、ナノ計測・評価を例題として取り上げ、ロードマップの紹介のみならず、システムの視点からも解説します。テーマ毎に（一社）ナノテクノロジービジネス推進協議会（NBCI）テクノロジー委員会推薦の産業界メンバーと本学コーディネータがペアで担当します。4回目は丸1日の演習を設定し、各受講生が選択した課題毎にグループを組んで、それまでに学んだ内容を基礎に自らロードマップ作成を試み、成果を発表します。

第5回目は「技術資産」を「事業価値」へと変える際に必要となる、プロジェクトマネジメント手法やMOTに関して学びます。

社会人科目等履修生に対しては単位を付与しない推奨科目として提供しますが、本講義は前期の「社会受容特論B」と共にナノテクノロジーの社会適応において不可欠な文理融合的要素を含む考え方を提供します。可能な限り各コースの受講生が共通科目としてコースを越えて履修し、社会性・国際性を育むことを強く推奨します。本土曜講座は社会人受講生には全日参加を推奨しますが、第1～3日目までは1日ないし半日だけの参加も可能です。ただし、第4日目の演習への参加条件は第1～3日目までのいずれかの講義討論に参加するとともに、予め選択性の演習テーマ（第2回目終了後に以下のホームページに掲載）に対する希望を提出することが必要です。 <http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/index.html>

受講希望の方は、下記の要領にてナノプログラム事務局へ受講申込みをお願いいたします。なお、講義資料、討論課題等については講義のある週の前半までにホームページ上に掲載します。

**\* 本科目は、社会受容特論と共に大学院博士後期課程社会人ナノ理工学特別コースの必修科目に指定されていますので、将来社会人ナノ理工学特別コースで博士号取得を希望される方はあらかじめ受講されることをお勧めします。**

本講座は大学院ナノプログラム受講の大学院生も同時受講し、討論・演習に加わります。

## 記

### (1) 開講日時と講義概要

第一日目 令和5年10月21日(土) 午前10時～午後1時、午後2時～5時

#### ① はじめに：

講師：藤岡 透／大阪大学エマージングサイエンスデザイン R<sup>3</sup>センター特認教授

本講義の趣旨、講義構成、討論方法、最終日の演習について概要を説明する。特に、演習については、複数の選択課題を示し、希望課題の選択方法、テンプレートを用いた演習への具体的な取り組み方、事前準備内容を説明する。

#### ② 前半テーマ：ナノテクロードマップ概要紹介とその活用法（午前後半、討論なし）

講師：結城 正記氏／大阪大学エマージングサイエンスデザイン R<sup>3</sup>センター特任教授

コーディネータ：宮坂博、藤岡透、その他の各教授

概要：はじめにテクノロジーロードマップの概念と構成及び作成要件を俯瞰する。次いで、ロードマップの階層構造を代表例として社会潮流、製品・システム・デバイス、ナノ材料・技術、規制・標準化の四階層で整理して位置づけ、また階層間の繋がりを捉えてロードマップ作成での討議と活用における重要性を示す。また、代表的なナノテクノロジーに関するロードマップ例（ITRS半導体ロードマップ）にも触れ、最後に最終回の演習に対するポイントを示す。

#### ③ 後半テーマ：ディスプレイのロードマップ講義（午後、討論あり）

講師：結城 正記氏／大阪大学エマージングサイエンスデザイン R<sup>3</sup>センター特任教授

コーディネータ：宮坂博、藤岡透、その他の各教授

概要：フラットパネルディスプレイ（FPD）分野について、まず2010年代初頭までの発展期の推移をTFT-LCD及びOLED技術を中心として当時のNBCIロードマップと合わせて振り返り、社会潮流との関係性において全体観を把握する。それをベースとして、現在進行するナノテクノロジーによる技術開発動向（量子ドット、 $\mu$ LED、3D、XR、他）を社会潮流・情報インフラ、リーディング製品、キーテクノロジー・ナノ材料及び規制・標準化の四階層の視点で捉え、FPD技術の今後の方向性・課題についても議論する。

第二日目 令和5年11月4日(土) 午前10時～午後1時、午後2時～午後5時

#### ① 前半テーマ：見える化活動のねらいと概要紹介（午前、討論あり）

講師：渋谷 明信氏／日本電気(株)セキュアシステムプラットフォーム研究所、ナノテクノロジービジネス推進協議会 テクノロジー委員会 委員長

コーディネータ：宮坂博、藤岡透、その他の各教授

概要：ナノテックは最終製品の中ではその在り様が見えにくい。しかし、実際には製品に高い付加価値を与えていることが多い。あらためてナノテックのメリットを出口側（製品）から見出したい、これがNBCIで行っているナノ技術の見える化活動である。ナノテックのメリットを最終顧客の目線で顕在化することにより、関連する産業界だけでなく、広く社会一般にもアピールすることも目指している。これまで、家、自動車、スマートシティなどを具体的なターゲットとして、そこで使われているナノテックを製品と結びつける活動をおこなっている。事例を重ねることでナノテックを用いた出口製品は大変多様であることが見えてきた。講義では見える化活動の紹介やナノテック研究事例を紹介しつつ、ナノテックの生み出す価値について共に議論したい。

② 後半テーマ：ナノ計測・評価（午後、討論あり）

講師 鈴木 康志氏／（株）島津製作所 分析計測事業部、ナノテクノロジービジネス推進協議会テクノロジー委員会 ナノ計測・評価分科会主査

コーディネータ：宮坂博、藤岡透、その他の各教授

概要：ナノテクノロジーを用いてナノ領域特有の機能を発現させるとき、研究段階はもちろんのこと、量産段階でもナノレベルの計測・評価が不可欠である。ナノテクノロジーの発展を予測してNBCIで作成した「ナノ粒子計測」「ナノカーボン計測」および、「半導体デバイス計測（ひずみ Si 計測）」の各ロードマップについて、その内容を紹介する。また、ITRSの半導体ロードマップ、NEDOの技術戦略マップのナノ計測に関わる部分の概要を紹介する。さらに、計量計測に関するナノテクノロジーの国際標準を作成、審議しているISO/TC229 JWG2の活動状況と今後の方向観について概説する

第三日目 令和5年11月18日（土）午前10時～午後1時、午後2時～午後5時

① 前半テーマ：マテリアルズインフォマティクス（午前、討論あり）

講師：岩崎 富生氏／（株）日立製作所 研究開発グループ 生産・モノづくりイノベーションセンタ、ナノテクノロジービジネス推進協議会テクノロジー委員会 環境・エネルギー分科会委員

コーディネータ：宮坂博、藤岡透、その他の各教授

概要：電子機器等の製品の高性能・高機能化に加えて、環境保全の立場から、環境負荷の少ない材料に置き換えていく必要性も高まっており、材料構成が多様化・複合化し、材料中で起こる現象が複雑になってきている。これに伴い、演繹的な手法で材料を設計することが難しくなり、実験や計算のデータを情報工学で処理することによって帰納法的に材料を設計する、いわゆるマテリアルズインフォマティクスが注目を浴びている。本講義では、この材料設計手法について、電子部品や生分解性を有する環境対応材料の界面設計に適用した例を示しながら紹介する。

② 後半テーマ：プリントドエレクトロニクス（午後、討論あり）

講師：内田 秀樹氏／日本ゼオン（株）、ナノテクノロジービジネス推進協議会テクノロジー委員会 IoTセンサー研究会 主査

コーディネータ：宮坂博、藤岡透、その他の各教授

概要：CNT（カーボンナノチューブ）は、チューブ状のナノカーボン材料であり、材料物性としては、半導体性、金属同等の電気伝導性や熱伝導性、機械強度を有している。一方では元素番号6が示すように軽量の材料でもある。材料を使用する場合は、ゴムや樹脂との練り込み、水、有機溶媒との分散液などとして扱えるため、有機材料と同様の塗布プロセスが使えるユニークな材料である。本講義では、CNTの一般的な材料特性から、実用化に向けて着実に進んでいる様々な応用製品開発の具体例を紹介する。一般的な工業製品だけではなく、SDGsの実現に向けた取り組みについても言及する。また、CNTを使った応用製品の実用化に向けて忘れてはいけない安全性、社会受容への取り組み、規格化の必要性についても取り上げ、CNTの社会実装に向けたトータルな議論を行いたい。

**第四日目** 令和5年12月2日（土）午前10時～午後1時、午後2時～午後5時

**演習：**（終日討論と発表）選択課題（例：未来の家、自動車、ウェアラブルIT、創エネルギー等：詳しくは第二回目以降に周知する）についてのロードマップ作成および発表

**講師：**結城 正記氏／大阪大学エマージングサイエンスデザインR<sup>3</sup>センター特任教授、  
**コーディネータ：**宮坂博、藤岡透、その他の各教授

**概要：**事前に各々が選択し内容を検討しておいた課題毎に小グループを結成する。ここでは【テクノロジーロードマップの概要紹介】にて指摘の「広範な分野からなるメンバーによる討議の重要性」を実践し体験する。午前中あらかじめ準備されたテンプレートにキーワードを埋める形でグループ毎に作業を行い、午後は前半の1時間でプレゼン資料PPTを完成させて、残り2時間を掛けて、グループ毎に発表してもらう。その後、講師の講評を受けて纏める。テンプレートに記載した内容は、活動の成果とすると共に、受講生間で共有できるようにしたい。

**第五日目** 令和5年12月16日（土）午前10時～午後1時、午後2時～午後5時

① 前半テーマ：現場で生きる世界標準のプロジェクトマネジメント手法：PMBOK®の本質（午前、討論あり）

**講師：**勝連 城二氏／PMイノベーションオフィス51 2023PMIJ登録講師・元パナソニック勤務  
**コーディネータ：**宮坂博、藤岡透、その他の各教授

**概要：**本講義は、プロジェクトマネジメント手法であるPMBOK®の概要と適用方法を学ぶ。ビジネス分野に限らず業界/業種を問わず研究機関や大学をはじめとする教育機関や公共団体等にも適用でき、プロジェクトマネージャーがそのリーダーシップとマネジメント力を向上させ、より大きな成果を生み出し、成功率を高めるために必要不可欠な手法として、各国で広く現場に適用され、グローバルスタンダードとして最も高く評価されている。

②後半テーマ：先端半導体と技術経営（MOT）（午後、討論あり）

**講師：**岡本 和也氏／日本工業大学大学院 技術経営研究科／山口大学大学院 技術経営研究科 教授  
**コーディネータ：**宮坂博、藤岡透、その他の各教授

**概要：**先端半導体のトランジスタは2次元から3次元に構造を変えながらnmスケールで昇華するも、微細化に伴うコスト的限界を迎えている。それに対処する施策として、Chipletなど従来の高密度実装の枠を超えた技術との新結合の時代に移りつつある。本講義では、半導体の基礎から先端半導体の技術概要を基軸に、公知技術情報の分析による産業推移の本質を理解する。次に、グループ討議により、新結合による新事業創成方法論に関わる技術経営（MOT）の骨子を学ぶ。

## (2) 開講場所

本講義は、豊中キャンパス・CiscoWebexMeetingを使ったオンラインのライブ配信講義を組み合わせ実施します。講義の受講方法と討論実施の手順は受講者が確定次第、別途案内します。講義資料、討論課題、演習テーマ等については、順次以下のホームページ上に掲載します。

<http://www.insd.osaka-u.ac.jp/nano/index.html>

### (3) 受講申込方法

- ・下記事項について、メールで令和5年10月16日（月）までにお申込み下さい。
- ・できるだけ、5回を続けて受講されることを推奨します。
- ・追って、講義資料の受領方法、講義の受講方法と討論実施の手順をお知らせします。

※返信先メール：[nano-program@insd.osaka-u.ac.jp](mailto:nano-program@insd.osaka-u.ac.jp)

※申込必要事項（返信内容）

- ・氏名：
- ・受講コース：
- ・受講日：（ご都合で半日受講の場合は午前・午後を併記下さい。）
- ・受講場所：豊中キャンパス・オンライン
- ・本講義で議論したい項目や質問など（積極的に記入を歓迎）：

回答送付先

ナノプログラム事務局メールアドレス：[nano-program@insd.osaka-u.ac.jp](mailto:nano-program@insd.osaka-u.ac.jp)

### (4) 問い合わせ先

大阪大学エマージングサイエンスデザインR<sup>3</sup>センター

TEL: 06-6850-6398 e-mail: [nano-program@insd.osaka-u.ac.jp](mailto:nano-program@insd.osaka-u.ac.jp)